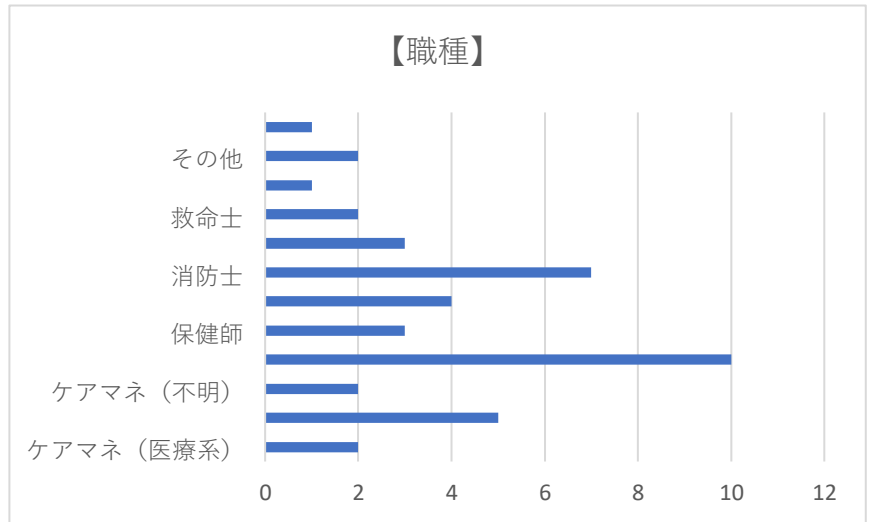


平成30年度：「人生の最終段階における救急医療のあり方」アンケート結果

日時 平成30年9月13日（木）16：00～18：00 会場 長浜赤十字病院 新館5階会議室
 参加人数 58人 アンケート回答率 72.4%（42人）

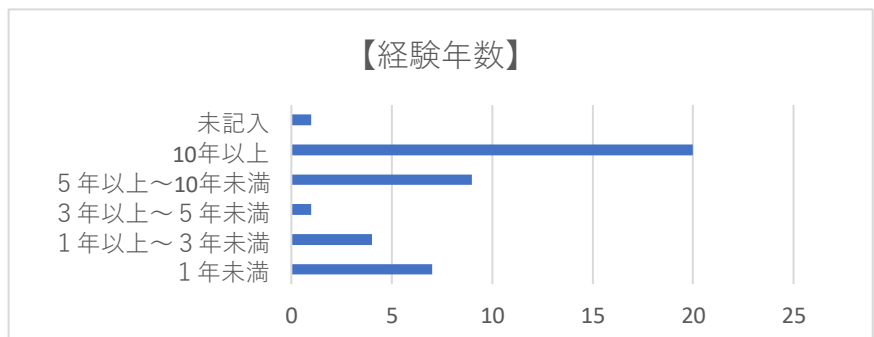
1、現職種

ケアマネ（医療系）	2
ケアマネ（福祉系）	5
ケアマネ（不明）	2
看護師	10
保健師	3
社会福祉士	4
消防士	7
行政職	3
救命士	2
事務職	1
その他	2
未記入	1



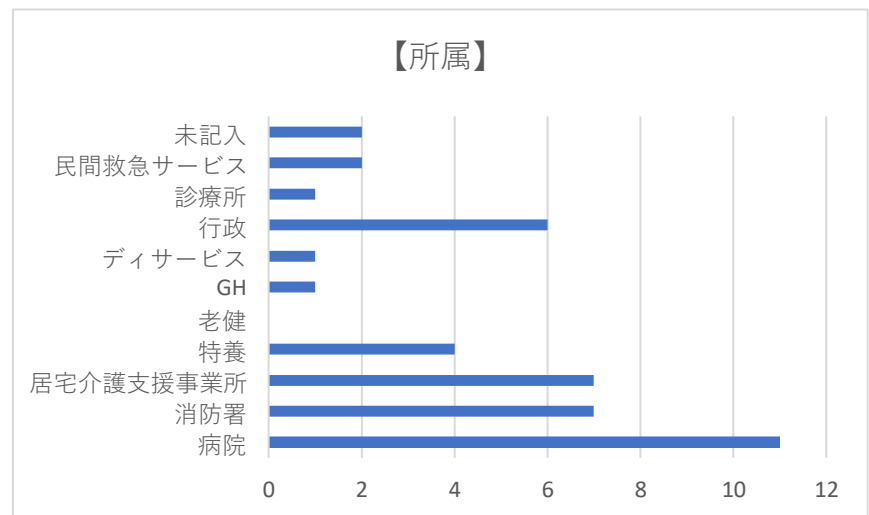
2、経験年数

1年未満	7
1年以上～3年未満	4
3年以上～5年未満	1
5年以上～10年未満	9
10年以上	20
未記入	1



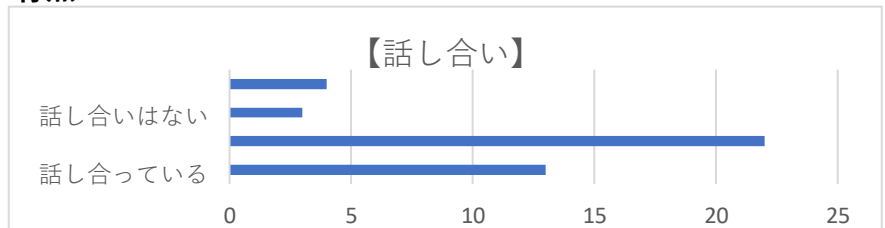
3、所属

病院	11
消防署	7
居宅介護支援事業所	7
特養	4
老健	0
GH	1
ディサービス	1
行政	6
診療所	1
民間救急サービス	2
未記入	2



4、人生の最終段階の話し合いの有無

話し合っている	13
今後話し合いたい	22
話し合いはない	3
未記入	4



既に話し合っている

- ・ D N A Rの搬送事例があれば、どこまでの処置をするのかを話し合っている。
- ・ 経口摂取量が低下してきたら、主治医と相談し看取りケアの話に進めていく
- ・ 施設で看取りケアを受けられることを、家族会やカンファレンスで伝えている。
- ・ 余命半年と言われ退院した利用者の状態に合わせて時々話し合っていて書面状残しています。
- ・ 延命（特に食事が入らなくなった場合の胃ろうや点滴）について。
- ・ 本当の最期の時に近づいてきた場合はできるだけ話す様にしていますが、時には老衰の方でも受け入れられずに生きることをあきらめられない方もおられます。なかなか気持ちが追い付いてこないのだと思います。そういう時の関わりに迷いを感ずます。
- ・ 特養入所時に延命処置の希望等を確認していますが、配置医師も365日24時間連絡がとれる理由ではなく、急変時等病院搬送を判断する場合があります。

今後、話し合いを進めていきたい

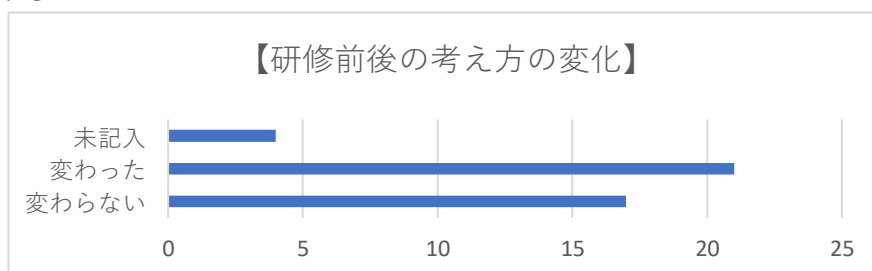
- ・ 病院からの退院時に関わっていると、医師もおられる為病状の説明を受けた際に今後の方針として皆で共有することがある。その後の希望に変化がないのか等、聞いたことはないのでも再確認が必要と思う。それ以外の方は話す事もない。どのようなきっかけで話せば良いか。かかりつけ医の受診時に徐々に確認してもらい、面談時等に情報提供・共有できると嬉しい。
- ・ 望むターミナルケア（在宅で過ごしたいのか施設がいいのか）を早い段階に聞いておき、本人・家族また関わっている人に悔いのないようにしてもらいたい。
- ・ 両親も高齢となってきたので、家族の中で話し合っていく必要があると感じた。
- ・ サービス担当者会議で十分な話し合いを行っていきたい。

話し合いはない

- ・ デイサービスの看護師なので直接利用者さんや家族さんと話あうことはないと思いますが、デイの利用されてる時間で、利用者さんの思いを聞き必要であればCMに伝えることはできると思います。

5、研修前後の考え方に変化はあるか

変わらない	17
変わった	21
未記入	4



変わった

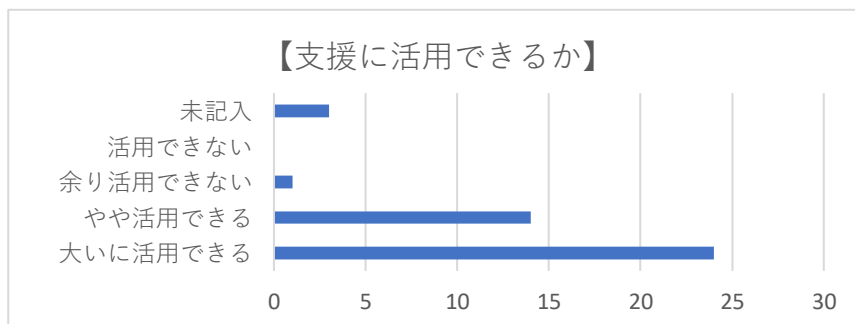
- ・ D N Rへの対応がいずれ解消していく希望が見えました。（消防士）
- ・ 救急車を呼ぶ時の判断（社福）
- ・ 終末期の意志確認をできるだけ進めていきたい（CM）
- ・ もっと連携をしていかないと感じました（救急救命士）
- ・ かすたねっとを知らなかったのでも、利用者、家人に広めていきたい（NS）
- ・ 何かあってからでは遅いことを感じた（その他）
- ・ 他業者の方の内情を知ることができた（消防士）
- ・ 救急車の利用について（行政職）

変わらない

- ・ いい意味で

6、本研修は今後の支援に活用できるか

大いに活用できる	24
やや活用できる	14
余り活用できない	1
活用できない	0
未記入	3



大いに活用できる

- ・救急の現状がわかり、初めて知ったことがとても多く、考える参考になりました。
- ・かすたねっとの内容
- ・救急の現場のことを具体的に学ぶことができた。
- ・高齢の患者さんが退院された時に、救急車の適正利用、民間救急車の利用を進めてみようと思いました。
- ・色々な立場の方の意見を聞くことができました。
- ・今後の救急活動時、家族への聴取内容。
- ・民間救急車の利用について
- ・救急車が不足しているという話を聞き、何かあった時には、民間救急の活用するなど、負担を掛けないように心がけたいと感じました。
- ・救急搬送のあり方。
- ・エンディングノートの活用
- ・民間救急車の業務が理解できた。
- ・看取り段階の方にどう関わっていくかを考えさせられた。

やや活用できる

- ・現状の問題がどんなものがあるのかを確認できた。
- ・安易に救急車を呼ぶ必要があるのか…？家族、関わったチームで協力してターミナルケアを迎えられるようにしたい。
- ・利用者様に救急要請時の説明や家族協議の必要性を伝えられる。
- ・民間救急車の存在を知ったので、世間話程度からでも広めていきたい。
- ・エンディングノートの活用、広める工夫
- ・民間救急利用について考える。
- ・民間救急の理解が深まった。
- ・かすたねっとの存在と業務内容を、民間・医療・介護関係者の方がもっともってほしい。
- ・DNRだけではなくACPに拡大して解釈していきたい。

7、本研修会全体の感想やご意見

- ・Dr、救命士、いろんな人の話ができた。
- ・今後もまた研修、よろしくお願いします。
- ・民間救急車の役割、活躍分野がたくさんあることを知りました。
- ・救急車だけに頼らず、地域で過ごせるといいと思いました。
- ・DNARをしっかり残していかないとだめだと感じました。
- ・DNARカードを作るのは良いと思いました。

- ・他業種の多岐の意見が聞けてよかったです。ありがとうございました。
- ・話し合っても決めていても気持ちが変わることは多くあります。また施設にはDrは常勤していないので死亡診断ができない日があります。協力医療機関と連携しても病院までの搬送に救急車が使えなくなる、間もなく心肺停止する人を施設の車で搬送しろとおっしゃるのですか。「何でこんな人を連れてきたのか」とか、「看取りの人に救急車を使うな」とか家族の前で言われた事があります。今日のような一方的な話は気分不快です。私達も汗だけで働いています。家族とともに良い看取りをするために。（入所系高齢者施設 看護師）
- ・エンディングノートのことなどもっと啓発していかないといけないと改めて思いました。地域（行政）でできること、医療機関でできること、それぞれの取り組みをもっと知ってネットワークを作って取り組めたらと思いました。
- ・多職種といろいろな意見交換ができ良かった。
- ・参加できてよかったです。医療と関わる研修に今後も参加したいです。
- ・自分の家族についても考え直すいい機会でした。最終段階に意思表示することが困難になる前に、家族と意思統一しておく事が必要だと実感しました。
- ・大変勉強になりました。
- ・地域住民の理解を深める取組み（教育）が必要だと思う。
- ・よかったです。



民間救急車(患者等搬送事業)って…?

なぜ民間救急制度は導入されるに至ったのか。その背景には、東京消防庁の「財政難」と「救急活動への支障」が主な理由とされている。

- ・財政上のコスト → 救急出動1件あたり約45,000円
(直接、間接、教育コスト、全て)
- ・活動の支障 → 救急出動の約半数が軽傷事案

すべての需要に無償で対応する現行方式はすでに限界に達していると、抜本的見直しを求め、民間救急制度は導入された。

